

アフリカ子どもの本プロジェクト 2011年度活動報告ならびに今後の活動予定

1、概況

昨年は、大震災のあと、さまざまな活動がストップしたり、本会のメンバーも復興のためのボランティア活動が忙しくなったりという中でしたが、毎月運営会を持ち、図書展も7か所で開催されました。

本会発足のきっかけとなった、ケニアの2つの図書館の現地の管理が、少年ケニアの友から現地 NGO に移管されることになるなど変化がある一方で、アフリカの他の地域での読書活動への援助の要請も入ってきています。本業の傍らでの活動のためゆっくりの歩みですが、今年も当プロジェクトの目的にそった活動を着実に積んでいきたいと思っています。

2、会員数

2010年度末の会員数は82名でしたが、昨年度からの継続会員を含め、図書展、講演会などを通して今年度も賛同者が会員として加わり、2011年度末の会員数は88名となりました。

3、2011年度活動報告(2011.4-2012.3)

3-1 運営会の開催

毎月1回運営会を持ち、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行いました。

3-2 ケニアの2つのドリームライブラリーへの支援、および、アフリカへの図書提供

エンザロ・ドリームライブラリー、シャンダ・ドリームライブラリーに、現地の新聞の購読料やライブラリアンへの謝礼を支援しています。また、利用状況の報告を受けながら、運営費の援助や、図書館運営への提言を行いました。(写真⑥)

シャンダ・ドリームライブラリーは拡張工事にもなって、木製の机やベンチの購入費用を援助しました。

(写真⑦)

また、2つのドリームライブラリーの現地での管理は、これまで「少年ケニアの友」が行ってきましたが、2012年5月より、「少年ケニアの友」のケニア人スタッフが立ち上げたNGO「DRESCHICO」が引き継ぐとの連絡を受け、検討した結果、DRESCHICOを通して、これまでどおり援助を続けることに決定しました。

・ケニア、ナイロビのムクル・スラムのインフォーマルスクールでボランティア活動中の日本の学生から寄贈依頼を受け、学校図書室開設のために、おすすめリスト掲載絵本の英語版、絵入り辞典、『エンザロ村のかまど』（スワヒリ語版と英語版）など約20冊と、図書館のあり方や利用のためのリーフレット（スワヒリ語版と英語版）のPDFデータを送りました。(写真⑤)

・青年海外協力隊でタンザニアに派遣され、地域の小学校を巡回し、読み聞かせ等の児童サービスを行う予定の、司書で会員の鈴木晴子さんに、『エンザロ村のかまど』（スワヒリ語版）5冊と『ジンガくんいちばにいく』を持って行っていただきました。

・ミュージシャン大西匡哉さんに、『エンザロ村のかまど』（スワヒリ語版）2冊を、ケニアのスラムにあるマゴソスクールの子どもたちなどに届けていただきました。

3-3 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」追加本の検討

会員の作家、翻訳家、司書、研究者、編集者などで、新しく出版された児童書の検討会を持ちました。

検討の結果、2011年度末現在、おすすめの本は127点となりました。これらの本は解説を準備し、ホームページ上で書影、書誌事項とともに紹介しています。

3-4 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

2012年度は以下の7か所で開催されました。新たな情報をもとに資料パネルを作り直すなど、内容も随時バージョンアップしています。展示や講演、イベントのようすは、ホームページをご覧ください。

アフリカンフェスタ2011では、プロジェクトのメンバーが、読み聞かせ、お絵描き・工作ワークショップ、グッズ販売などをしました。

また、今年度までは「おすすめリスト」の本を全点展示していましたが、2012年3月にいくつかの観点から見直しをかけて27点をはずし、2012年3月末現在、展示図書を全100点としました。

- ・クリエイティブ・スペース赤れんが（山口） 2011年8月4日～7日 ぶどうの木—山口市子どもと読書ネットワーク主催（写真①）
- ・岡町図書館（大阪） 2011年8月16日～21日 豊中市立岡町図書館・豊中子ども文庫連絡会主催（写真②）
- ・江戸川区立中央図書館（東京） 2011年9月23日～10月10日 江戸川区立中央図書館主催
- ・静岡市立中央図書館（静岡）2011年10月15日28日 静岡子どもの本を読む会・静岡市立中央図書館主催（写真③）
- ・山下公園＜アフリカンフェスタ2011＞（神奈川） 2012年11月12、13日 外務省・横浜市主催（写真④）
- ・糸島市健康福祉センター「ふれあい」（福岡）2011年11月26日～12月4日 「子どもの読書」ネットワーク糸島主催
- ・東近江市立八日市図書館等（滋賀）2012年1月24日～2月19日 ルピナスさんの会主催

※次の出版社様から本年度追加の展示用図書をご寄贈いただきました。お礼申し上げます（50音順・敬称略）。
岩崎書店、偕成社、講談社、農村漁村文化協会

3-5 支援グッズの製作・販売

活動資金にあてるため、前年度製作した会員の画家（沢田としき、伏原納知子、向井晶子、たかぎちほ）による絵ハガキセットに加え、オリジナルTシャツ（沢田としき絵・白黒それぞれS・M・Lサイズ）を展覧会場やホームページで販売しました。また、ブルキナファソの民芸品を購入し、展覧会にて販売しました。

3-6 ホームページの更新

「おすすめリスト」、展覧会の情報や報告など、ホームページを随時更新しました。

3-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

電子メールを使って、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに発信しました。

3-8 『エンザロ村のかまど』スワヒリ語版、英語版 各500部完成

アフリカ子どもの本プロジェクト誕生のきっかけともなった『エンザロ村のかまど』（福音館書店）のスワヒリ語版、英語版を各500部が完成しました。寄付にご協力くださったみなさま、ありがとうございます。

ケニアの2つのドリームライブラリーには、スワヒリ語版、英語版各25部を送付。その他、アフリカに派遣される方などを通じて、現地の学校等に届けています。

1部1000円（+送料80円）で、個人への希望者へ頒布しています。

4、2011年度の活動予定

4-1 運営会の開催

毎月1回運営会を持ち、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行います。

4-2 ケニアの2つのドリームライブラリーへの支援、および、アフリカへの図書提供

ケニアでの管理主体が現地NGO「DRESCHICO」に引き継がれるため、現地の状況を注意して見守りながら、引きつづき寄贈本や寄付を集め、蔵書の充実をはかっていきます。図書館が人々に活用され地元根づいていくよう、図書館の利用状況の報告を受けながら、運営費の援助や、図書館運営への提言を行っています。

また、アフリカを拠点に活動しているいろいろな団体との協力の可能性を、引きつづきさぐり、必要などころには支援をしていきます。会員のパトリック・ヌワディクさんから要請のあったナイジェリアへの支援も今後検討していきます。

4-3 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」追加本の検討

引きつづき、新しく出版されたアフリカに関する児童書の検討会を定期的に持ち、リストの充実につとめていきます。

4-4 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

現在の予定は次の1か所です。引きつづき、貸し出し団体を募集しています。

・京都国連寄託図書館（立命館大学衣笠キャンパス内） 2012年10月25日～12月4日

4-5 支援グッズの製作・販売

絵ハガキセット、オリジナルTシャツ、アフリカの民芸品などを販売し、活動資金としていきます。

4-6 ホームページの更新

随時更新して、プロジェクトの活動を伝えていきます。

4-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

引きつづき電子メールを使って、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに発信します。

4-8 日本の子どもたちへの広報活動

「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」のほかにも、機会をとらえて、引きつづき日本の子どもたちにアフリカのことを知ってもらう活動を続けていきます。

4-9 アフリカで出版されている本の収集

今年度は新たに、アフリカ各国で出版されている児童書等の収集に力を入れていきます。アフリカの出版事情を知るとともに、アフリカ発の本を紹介していきたいと考えています。

5、会計報告（2011.4.1～2012.3.31）

（省略）